

緑ひろがる！ 創造実践マップ

滋賀の縁創造実践センター“えにし活動実践マップ” 2016.9.30時点

- 縁・共生の場
 - ・遊べる・学べる淡海子ども食堂 ●37か所
 - ・“滋賀の縁”認証事業 ●9か所
- 課題解決のためのネットワーク
 - ・滋賀の縁塾の開催 ●8か所
 - ・圏域交流会の開催 ●7か所
- 制度のはざまの解決に取り組むモデル事業
 - ・フリースペース ●
 - ・要養護児童の自立支援 ■
 - ・入浴支援事業 ▲
 - ・ひきこもりの人と家族支援 ◆
 - ・はたらく体験 ★
- 縁結び・つながりづくり
 - ・ふく・楽café ●
 - ・福こい♡縁結び♥

縁センターの最新の動きをマップとともにお届けします。

あたたかいまなざしと可能性を育む支援をさらに豊かにしていきましょう。

団体会員

新加入！ 淡海フィランソロピーネット参画！
～縁の輪が企業にも広がっています～

淡海フィランソロピーネットは、企業や団体が地域社会にとってより魅力的かつ効果的な活動を推進することを目的に、企業や団体の社会貢献活動に関する普及、啓発、調査、研究情報交換、交流を行う団体です。都道府県レベルでは全国最初の社会貢献活動に関する企業等のネットワークとして、平成8年に設立されました。

今後、ともに縁センターの取り組みを推進する仲間となってくださいました。このご縁を大切に、これからの滋賀の縁をより豊かなものにしていきます。

縁結び事業

「秋こい♡えにしBBQ」を開催しました
～出会いは縁のなかに★食べて笑って、ちょっと新しい明日へ！～

4月に実施した独身男女の縁結び事業「福こい♡縁結び」のアイデア募集の結果を受けて、今年度の第1回はBBQ企画となりました。9月19日(祝・月)男女それぞれ9人、計18人が参加。婚活男性専門会話力アップセッションラフソウルの西田千佳子先生の進行のもと、ブルーメの丘の自然や動物に囲まれてBBQや迷路を通して交流を深めました。3組のカップルが成立し、笑顔輝く一日となりました。

みんなが笑顔になれる1日をめざします！(Team縁結び)▶



モデル事業 連続レポート

児童養護施設等で暮らす子どもたちの社会の架け橋づくり事業

将来、一緒に働きたいね！ ハローわくわく仕事体験
17人(延べ20回)が
16企業で体験しました

- 緊張している学生に対して、従業員たちの思いやりのあるあたたかい接し方を見ることができ、改めて自分の会社を誇りに思えました。
- 今後当社雇用の1つとなるよう進めていきたい。
- 体験してくれた子どもたちが自信をつけ、良い経験ができたと思ってくれたことで、会社の存在意義も感じることができました。子どもたちの姿を通して、社内での理解が広がり、関心を持ってくれる人が増えたこともよかったです。子どもたちの言動から、多くの学びがありました。

現在登録企業・事業所数は92か所となり、子どもたちの将来の可能性と出会っていただく機会が広がっています。さらなる応援のお申し出をお待ちしています！

児童養護施設や里親のもとで暮らす子どもたちの自立を企業・事業所が応援する「ハローわくわく仕事体験」。この夏休み、17人(延べ20回)が16企業で体験を終えました。今回は、子どもたちをあたたかく受け入れ、貴重な時間とともに過ごして下さった企業の方からの声を紹介いたします。



▲セミナーでも熱いメッセージを子どもたちに届けてくださいました。

えにし通信

2016.10.31
Vol.8

誰もが「おめでとう」と
誕生を祝福され
「ありがとう」と看取られる
地域づくりマガジン

滋賀の縁創造実践センター

特集 ひきこもりの人と
その家族のココロへの
アプローチ

甲賀・湖南
ひきこもり支援
『奏一かなでー』A …P2-4



縁を広めよう・深めようインタビュー
縁の実践から生まれた、公私協働の動きを
市町域でもっと広げていきたい

B ……P6-7

桐畑 弘嗣 さん 滋賀県市町社会福祉協議会会長 会長
社会福祉法人 大津市社会福祉協議会 会長
滋賀の縁創造実践センター 副代表理事

米原市の任意団体リエゾンが開催している
子ども食堂「湖北子ども食堂Liaison リエゾン」に
集まった皆さん。(詳細はP8参照)

CONTENTS

- *津久井やまゆり園事件を受けて
緊急アンケート調査を実施 ……P5
- *ようこそ!うちの子ども食堂 C ……P8-9
湖北子ども食堂Liaison リエゾン
- *インフォメーション ……P10
- *滋賀の縁創造実践センターの目標・会員名簿…P11
- *縁ひろがる!創造実践MAP ……P12
団体会員 淡海フィランソロピーネット参画!／「秋こい♡えにしBBQ」

今回の「えにし」は
ここからお届け★



大津市 B A 湖南市

C 米原市

A 湖南市

B

【発行】滋賀の縁創造実践センター 第八号 発行日 平成二十八年十月三十一日 〒525-0072 草津市笠山一丁目8番1号 TEL:077-569-4650 FAX:077-567-5160 http://www.shigashakyo.jp/enishi

ひきこもりの人とその家族の ココロへのアプローチ

甲賀・湖南ひきこもり支援 ～私らしく、あなたらしく～『奏～かなで～』

ひきこもりは支援につながりづらく、ご本人やご家族などは相談できずに孤立していることも少なくありません。そうした中、「現行の制度では届けられない支援」を届けることをめざして、モデル事業「甲賀・湖南ひきこもり支援 奏～かなで～」が会員である社会福祉法人さわらび福祉会を中心としてはじまりました。なんとか支援を届けたい——そんな思いを持った保健所・市役所・市民児協・市社協がチーム(=運営会議)をつくり、取組がすすんでいます。

1 支援を届ける訪問支援 (アウトリーチ)の実践

自宅への訪問や同行により、ゆっくりと関係づくりをしていきます。普段の様子や希望を伺い、次への一歩を一緒に考えていきます。



誰だって1人ひとり、必要な時間や空間は違います。ゆっくりお話をしていけたら嬉しいです!(相談員より)

2 奏サロン(居場所づくり)

1人ひとりの希望や事情に合わせながら、自宅以外の居場所づくりを提案します。自分のペースで過ごせる場を大切にします。慣れてこられたら、皆さんで交流する機会も考えていきます。

3 家族交流・学習会

家族同士の交流の機会や、各地の取り組みを学ぶ機会をつくります。当事者家族としての立場だけではなく、ご家族自身も「私」でいられる場づくりを考えています。

10月14日(金)、ひきこもりがちな生活を送る方のご家族を対象とした学習会を開催し、ご家族や関係者あわせて約40名が集いました。【ひきこもりがちな生活の背景を知ることから始める】をテーマに、「ひきこもりはだれにでもありうること」で、「肯定的な見方をすること」「サポーター自身が元気であること」などのメッセージをみんなで共有しました。この学習会へ参加したことが相談や家族会への参加のきっかけになればと考えています。



4 地域啓発および当事者からの発信

福祉関係機関(者)だけでなく、市民の方に関心をもっていただけるよう、学びあい、縁を結んでいける交流会、学習会などに取組みます。また、活動をすすめながら、ピアサポート(当事者同士の支え合い)活動もすすめていきます。



▲7/15 彦根市青少年育成市民会議の皆様にお越しいただき、見学&研修会。

奏での取組からから見えてきたこと、
これからへの思い～それぞれの視点から～

専門職だけでなく、地域のみなさんと一緒に手を携えて...
立場や所属は違っても、
思いはひとつ
「またあの笑顔がみたい」

民生委員

湖南市民生委員児童委員協議会
会長 市川 徹二 さん



取組みが進むほど、この支援の奥深さを痛感する毎日。だから「チーム」が心強い

いろいろな立場の方々と話し合う中で、「ひきこもり」の解決にどう取り組んでゆくか、全員がその大切さを強く感じるようになりました。これまでパンフレットの作成、事業の名称、広報のやり方、進め方について議論してきましたが、より多くの方にこの活動を知って頂く必要があることが課題として見えてきました。
今後はまちづくり協議会等の各団体との交流を通し、多くの方々に情報発信し、課題解決に向け努力したいと思います。

保健師

甲賀健康福祉事務所
野中 梓 さん



奏のつながりのおかげで、ちょっとした相談がしやすくなりました

奏は、これまで以上に他機関・多職種の地域の支援者と連携し、方針の検討を丁寧に行っています。さらに、市民にも関心をもってもらう地域づくりも検討しています。この取組みを通じて、支援者のスキルアップと連携強化が進んでいます。
今以上に地域全体でひきこもり支援に目を向けた地域づくりが充実し、住みやすい地域になることを期待しています。

社協

湖南市社会福祉協議会
奥野 修司 さん



訪問支援の重要性を、改めて感じています

「奏」の取り組みは、訪問支援を繰り返して本人や家族にとって、よき居場所、よき相談者になっています。また、関係機関が情報共有し、支援方法を協議している事は大変意義があります。「奏」を通じてできた関係機関とのネットワークをとおして、既存の福祉サービスだけでは対応困難な事案の解決、仕組みづくりにつなげる事が大切だと再認識させられました。

相談員

社会福祉法人さわらび福祉会
北出 篤嗣 さん



ご家族や地域の方にとっても気軽に相談や立ち寄ることができる場所『奏』

こもりがちな生活を送っているご本人にだけ目を向け働きかけ続けても、本当の意味での解決にはならないということ。そこには、心配しながらもどうすればよいかわからない家族や、近いからこそ気づいていても触れられずにいる地域の住民さんがいる。だからこそ、地域住民の方々が気軽に相談できる場所が必要であり、『奏』をそんな場所にしていきたいです。奏を通して出会う皆さんに、元気を頂く毎日です!

他の地域にも、ひろがりはじめました～長浜市～

■ふうせんの会

～行き渋り・不登校・ひきこもりの子を持つ親の会～

突然わが子の困りごとに直面したとき、親御さんには「どこに相談すればいいのか?」「どういう対応をすればいいのか?」「これから、この子の未来は?」等のあらゆる心配が沸き起こることもあると思います。

ここはそんな思いをみんなで分かち合いながら、共に元気になる場所です。あたたかい飲み物や仲間とおしゃべりをおして親自身の気持ちを充電し、それが子どもさんの元気につながることもあるかもしれません。

- 対象:行き渋り・不登校・ひきこもりの子を持つ家族
- 日時:毎月最終金曜日19:30～
- 場所:高月公民館(長浜市高月町渡岸寺141-1)
- 問い合わせ先:高月公民館 TEL:0749-85-5204

■えんかふえ

～ひきこもりの若者・不登校のこどもの居場所～

ひきこもり状態にある人やその家族に「ちょっと楽になったな」と思ってもらえる場をつくりたい——そんな思いから始まった取り組み「えんかふえ」。名前の由来である「エンカウンター」(本音を表現し、互いに認め合うこと)ができるカフェになるようにという願いをこめて、月に2回、開催しています。

- 対象:30代くらいまでのひきこもりの若者とその家族
- 日時:毎月第1・3木曜日 13:30～16:30
※詳しい日時はお問い合わせください。
- 場所:長浜市社会福祉センター(長浜市高田町12-34)
- 内容:みんなのやりたいこと★
- 参加費:無料
- 問い合わせ先:長浜市社協 地域福祉課
TEL:0749-62-1804

ひきこもりの人とその家族の ココロへのアプローチ

誰もが住み慣れたこのまちで、自分らしく暮らすことが
実現できる地域づくりを皆さんとすすめたい

■制度だけでは届けられない ～抱えてきた葛藤

平成16年9月、社会福祉法人さわ
らび福祉会は、湖南市に精神障がい
者を対象とした通所施設「ワークス
テーション虹」と地域生活支援センター「このゆびとまれ」を開
所しました。開所当初は県・市からの受託である相談支援事
業を中心に、一人ひとりの顔がよく見える距離間で、暮らしに
密着した支援を行ってきました。しかし徐々に人が増え、制度
が変わり、求められる機能も拡大していく中で、従来のような一
人の人にとことん関わることや、具体的な支援の効果が表れ
にくい人にずっと関わり続けることが難しくなってきました。既存
のサービスや支援に繋がりにくい人や、作業所に行ってみた
けど続けられずにひきこもった暮らしに戻ってしまう人、支え手
が増えていかない、いわゆる制度の狭間にいる人たちを追い
かけ続けられない現実と、見守り続けたい思いとの葛藤を、支
援者自身も抱えてきました。

ひきこもった暮らしをしている人は、その人それぞれの辛
かった背景を抱え、長期間にわたり人や社会から一定の距離
をとって、自分自身を守りながら生きている人たちです。そんな
人たちが、新たな人や関係を受け入れていくのは容易なこと
ではありません。多くの方は、会ったことない支援者を警戒し、
時には拒否することもあります。長い時間とねばり強いアプ
ローチを続ける覚悟が必要で、何ヵ月、何年に及ぶ関わりの中
で、ようやく本人の中に小さな変容や力動が起こることもありま
す。実績給付化が進む現行の福祉サービスの対象にはなりに
く、市場化すら懸念される昨今の福祉情勢の中で置き去りに
なりつつある人たちに、手を差しのべる術を願ってきました。

「自宅にこもりがちでどうしよう…」
「人と関わるのが不安…」
「外に出たいがきっかけがない…」
そんな気持ちをひとりで抱えている
あなたに、そして地域の皆さんに
届けたい思い——



ワークステーション虹／
スポットライフくればす 施設長
山崎 秀樹 さん

■1人ひとりの暮らしに寄り添う姿

平成27年9月、ひきこもった暮らしをする人やその家族を対
象として、滋賀の縁創造実践センターのモデル事業である「甲
賀・湖南ひきこもり支援 奏-かなで-」がスタートしました。この事
業の目的は、ひきこもっている人にこちらから歩み寄り、その生
活に寄り添い、その現象の背景を知り、その人たちにとって少
しでも暮らしやすい地域の在り様を探ること、それらの実践と
検証を行っていくことです。

この事業の推進には、甲賀地域の多くの関係者に参画いた
だく「甲賀・湖南ひきこもり支援『奏-かなで-』運営会議」を組織
し、協議を行っています。様々な分野、職種、立場の人たちが、
それぞれの視点から「ひきこもり」に思いを寄せ、熱い議論が展
開されていますが、この運営会議の構成者の皆さんに共通し
ていることは、「ひきこもる人を社会の排除者にしない」という意
思だと私は思っています。

■「ひきこもり」とは何だろう？

「ひきこもり」という言葉が社会にもたらすイメージ、当事者や
家族が抱える社会への絶望感、越えていくべき壁は計り知れ
ないものがありますが、我々は福祉分野という垣根を越えて、
同じ思いを共有してくださる方々に力をいただきながら、わが
法人の理念「障がいがあっても、住み慣れたこのまちで、自分
らしく暮らす」を実現する地域づくりに向けて歩んでいきたいと

津久井やまゆり園 事件を受けて 緊急アンケート調査を実施

7月26日に発生した津久井やまゆり園における殺
傷事件におきましては、被害に遭われ亡くなられた
方々のご冥福を心よりお祈りするとともに、ご家族の
皆様にはお悔やみを申し上げます。また、現在も治
療にあたられている方々の一日も早い回復をお祈り
申し上げます。

公益社団法人滋賀県手をつなぐ育成会との共同で ブックレット(小冊子)を作成しました。

滋賀の縁創造実践センターでは、「おめでとう」から「ありがとう」
までだれもが、人としていきいきと暮らせる滋賀を理念として、ひとり
のもれもなく、人間として生まれてきた生きがいを豊かに感じられる
ような地域と支援をつくるための実践に取り組んでいます。

縁センターは何のために、誰のために実践をしているのかを考え
たとき、今回の事件をしっかりと受け止め、行動をしたいという思い
から、障害者福祉サービスの事業所の管理者様にアンケート調査
をお願いさせていただきました。そして、障害のある方の「大切なこ
とば、生きいきとした姿、いのちの重さ」を写真やアンケート調査にて
いただいた回答や貴重なメッセージをとおして伝えていくための
ブックレット(小冊子)を、公益社団法人滋賀県手をつなぐ育成会と
の共同で作成しました。

《調査の概要》

期 間：平成28年8月15日～31日
調査対象：滋賀県内の障害福祉サービス事業所
770事業所
回答事業所数：195事業所
調査項目： ●利用者、家族からの表出
●福祉の仕事に従事している人や
これから従事する人に伝えたいこと
●共生社会の構築に向けて、
事件から感じること、さらにやらねば
ならないこと 等

～調査でいただいたメッセージ～ (一部抜粋して紹介)

- ・ 普通の生活のなかで特別でなく障害のある方の生活や権利について
考えられる社会になってほしいです
- ・ 障がいあるなし関係なく、みんなのなかで暮らして当然だという理解を
教育の現場でも必要だと感じる
- ・ 今こそ、この人たちのいのちの輝きというものをひとりでも多くの人に
みていただきたい
- ・ 支援ということだけに留まらず、“まちづくり”、“地域づくり”のために
できることは何か考え、実行していくことも福祉領域で働く人たちの
役割だと今回のことから強く感じました



興味・関心のある方は、右記までお問い合わせください TEL:077-569-4650 (滋賀の縁創造実践センター)



縁の実践から生まれた、 公私協働の動きを市町域で もっと広げていきたい

滋賀県市町社会福祉協議会会長会 会長
社会福祉法人 大津市社会福祉協議会 会長
滋賀の縁創造実践センター 副代表理事
桐畑 弘嗣 さん

活動開始から3年目を迎えた縁センターの実践について、市町社協という立場から見た成果をお聞きするとともに、市内、町内という身近なエリアでの、困りごとを抱える人を支える協働実践の仕組みづくりについて、滋賀県市町社会福祉協議会会長会会長の桐畑弘嗣さんにお聞きしました。

会費を出し合って活動することで、 責任感が生まれた

谷口 縁センターは設立から3年目に入りましたが、桐畑さんは縁の実践について、どう見ておられますか。

桐畑 縁センターは、民間の福祉関係者が分野を超えて集まることで実現しました。これが実現できた要因として、私は、それぞれが会費を納め、その上で活動しているということが大きいと思います。会費のない集まりだったら、恐らく実際の動きはもっと鈍かったでしょう。しかし会費を出すことで、相応の責任も担うことになります。それが良かったのではないのでしょうか。

谷口 会費を出すということに対しては、最初は抵抗もあったと思いますが、どうでしたか。

桐畑 それはなかったですね。発起人の方たちの説明で主旨が皆さんに理解してもらえました。それぞれが会費を払うことで、自分たちが考えている制度のはざまにいる人の支援をしようと活動を始めたので、それが成長してきていると感じています。

谷口 会費を払ったからこそ、それを、今、必要としている人のために有効に活用しないといけないという責任感が生まれた、ということですね。

桐畑 もう一つ、私は県に対して施策提案を行う「地域福祉施策検討委員会」の委員長もしていますが、縁で協働実働をしてきたことで、この委員会の議論も活発になり、提案も充実したものとなってきました。

たとえば、児童養護施設で暮らす子どもたちのしんどさも、児童分野以外の関係者の理解がすすみ、みんなが視野を広くもてるようになりました。これは、縁のおかげだと思っています。

有期の縁センターの活動はあと2年半。それ以降もこれらの活動が引き続き、それぞれの市町に根づいていくようにしていきたいものです。

唐崎学区から始まって大津の21の学区に 広がった「寺子屋プロジェクト」

谷口 社協は暮らしの場で「おめでとう」から「ありがとう」まで、だれもが生きがいを持てる地域づくりに取り組んでいます。桐畑さんは唐崎学区社協の会長も務められ、縁センター設立以前から、地域に根ざした支援活動を展開しておられますね。どんな取組をされてきたか、教えてください。

桐畑 私は平成15年度から唐崎学区の社協の会長をしているのですが、今は大津市内21学区に広がっている「寺子屋プロジェクト」は、実は平成25年度に唐崎学区でスタートしたのが始まりです。唐崎学区は、当時学齢期の生徒の16%程度の家庭がひとり親家庭でした。そんな中で、子どもの学習支援・居場所づくりが課題の一つとなっていました。

あの頃の中学校では生徒が授業中も廊下や体育館の横でウロウロする姿が見られ、私は彼らに学ぶ楽しさを感じてもらえるきっかけをつくれたら、と常々思っていました。

そこで、小学校・中学校・高校とPTA会長を経験された佐野裕昭さんにお声かけして、子どもの居場所づくりとしてスタートしたのが「寺子屋プロジェクト」です。夏休みや冬休みなどの長期休暇を利用した活動です。今年の夏休みには19日間にわたり学校の教室を開放してもらい、中学3年生を対象に、大学生ボランティアに手伝ってもらって、学習支援

活動をしました。生徒はそれぞれ、自分のやりたい教科に取り組んでいましたが、英語や数学が多かったですね。

また、小学生向けには、学区の夏祭りのときに「寺子屋テント塾」を開設して、そこで出されたプリントが出来たらピンバッチがもらえる、という活動をしています。同様に、冬休みには校舎内で書き初めなどもしています。

谷口 地元の高校生や大学生ら若者が一緒にいてくれる、それだけでも大きな力ですね。その他に、唐崎学区で取り組んでおられることはありますか。

桐畑 唐崎学区では、以前は5年に1度しか開いていなかった敬老会を「地域交流のつどい」と名づけて地域ごとに自治会長に委員長を務めてもらい実行委員会形式で行うほか、高齢者と幼稚園・保育園児の合同スタンプラリーを始めるなど、世代を超えて地域のつながりを感じられる事業を開催しています。

協働のチームで、一人暮らしの 高齢者に向けた福祉政策を考えたい

谷口 お話を聞いていると、自分たちだけでなく他の団体と一緒に活動する、というのが桐畑さんの取組の極意のようですね。大津市社協も社会福祉法人の集いを始められました。どんな考えのもとに、スタートされたのでしょうか。

桐畑 事業をすすめるうえで、ひとつの事業所、あるいはひとつの種別だけで実施していてもやはり広がっていきません。これからは「みんな協働でやっていく」という考え方をしないといけないと思っています。これまでも団体同士が集まる場合は種別にはありましたが、分野を超えた集まりはありませんでした。そんなところから、大津市内の福祉関係者、法人の皆さんに集まってもらって、まず社協の会員になってもらおうと考えています。

もう一つ、他の学区社協の会長さんたちによく言うのですが、やはりトップに立つ人はマネジメントができないといけません。集まって話をするといろいろなアイデアが出てきます。現場の人が現場同士でというのも大事ですが、やはりトップが全体を見ながら仕組みを作っていくことが大事ですね。私は、会議から戻るといつもその内容をまとめて、事務所内で共有しています。

谷口 この地域の福祉のために、困っている人のために一緒に汗をかこうという思いを持ってくださっている方たちへの働きかけは、社協のコミュニティワーカーの大事な仕事です。そして集まって話をするときには方向性というものが重要で、ここが違うと市民の皆さんのためにならない、ということですね。

桐畑 今後の課題は、高齢化が進む中で一人暮らしで困りごとを抱えるお年寄りが増えていることです。そこで、大津市社協では「お一人様高齢者の困りごとに関する調査研究事業」を実施しようと考えています。アンケートや聴き取り調



▲大津市唐崎学区で行なわれている学習支援活動「寺子屋プロジェクト」の様子。これまでは長期休暇限定のプロジェクトとして行われてきたが、中学校の先生からの「平日の夜にもやってほしい」という声を受け、11月1日から平日の夕方に週2回、中学3年生を対象に実施が決定したところ。

査を通して、一人暮らしのお年寄りがどんなことで困っておられるかを探り、課題解決に向けた支援の仕組みを考えていきたいと思っています。

そのための組織を立ち上げて、大学の先生、弁護士、行政、地区社協、民生委員、老人福祉施設の関係者、病院関係者、そして市社協の職員など約20人のチームを作りました。谷口さんにもオブザーバーに入らせていただいています。この中で今年中に調査研究に取り組み、それに合わせた福祉政策を提案していこうと考えています。

谷口 桐畑さんご自身は大津市社協の会長として、今後どのようなことを大切に活動を展開していこうと考えておられますか。

桐畑 縁によって協働の輪が広がってきましたが、例えば私は地区民生委員・児童委員の会議にも出来るだけ出席するようにしています。また自治会の月例会には、福祉委員と民生委員・児童委員の皆さんにも来ていただいて、地域の現状・課題について共通の認識を持てるような体制づくりをしています。集まって話すことで、理解が深まり、広がっていく——それこそが「縁」だと思うからです。そうした集まりを重ねて、ようやく気になる子の存在やその課題に気づくことのできる地域が育まれていくのではないのでしょうか。このように、職種や組織の壁を越えて公私協働で課題を共有することから、縁のような動きがどんどん生まれてくると期待しています。

谷口 福祉の関係者がいつの間にかくっついた「自分の境界」を越えて一つのことを共有していけるって、とてもすてきで“滋賀だからこそ”ですね。

どうもありがとうございました。

インタビュー／谷口郁美
滋賀の縁創造実践センター所長



ようこそ!うちの子ども食堂

任意団体リエゾン(米原市) 湖北子ども食堂 「Liaison」

現在、県内37か所に広がる「遊べる・学べる淡海子ども食堂」。“ごはん”を通じて子どもを大事にする垣根のない居場所づくりが進んでいます。あたたかな食堂を開催されている皆さんは、どのようにしてこの食堂をすすめられているのでしょうか。今月の表紙にも登場して下さった「湖北子ども食堂『Liaison(リエゾン)』」の皆さんにお伺いしました。

リエゾンで大切にしていることは、まずは大人が笑顔でいること。みんなで「いただきます」をすること。そこから生まれる“つながり”づくりです。

子どもや大人がほっとできる場所をつくりたい!

以前から子どもや大人がほっとできる場所をつくりたいと考えていたんですが、大阪の寝屋川市でおきた事件を知り、自分にもなにかできないかという思いが強くなりました。あるとき、ここでパウンドケーキを焼いていると、近くにお住いの親子がカフェだと思って入ってこられました。私は来ていただいたことがうれしくて、お店じゃないですとは言えず、思わず「どうぞ」と(笑)。ちょうどそのとき、男の子のお友達数人がとなりの公園で遊んでいたため、焼きあがったケーキをみんなで囲むことに!それ以来、何度も子どもたちがやってくるようになり「店長」と呼ぶようになりました。こんなに子どもたちがここを喜んでくれるなら、いつかいつか言ってないで始めてみよう!と思ったのです。子どもたちに背中を押され、家族の理解と協力を得て、今年1月「子ども食堂」としてスタートをきりました。

みなさんとの、想定外の出会いがうれしい★

初めは呼びかけのため、遊びに来ていた子どもたちのお家をまわりました。「子ども食堂というと、あの、ご飯を食べさせてもらえない子が行く所ですか」とたずねられるお母さんもうらっしゃいましたが、「それにこだわらず、地域のみんなが楽しく食卓を囲んでつながりを作る場所にしたいなと思ってるんです」とお話ししたら、わかっていただけました。2回目以降は自治会の協力でチラシを全戸配布し、今では毎回20人くらいの子どもが集まっています。

回を重ねるにつれて、地域のさまざまな人が集ってくださるようになりました。子どもさんと一緒に来て食事の準備を手伝ってくださるお母さん。朝の登校時「今日の子ども食堂は何かなあ」と子どもたちが楽しみにしているよ!とうれしい知らせを届けてくださる民生委員・児童委員さん。小学校の校長先生、近くの大

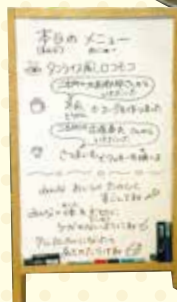
店長:北居 理恵 さん



▲お家の農機具倉庫の一部を3年前に改装。おしゃれなカフェ風の一角に生まれ変わりました...★



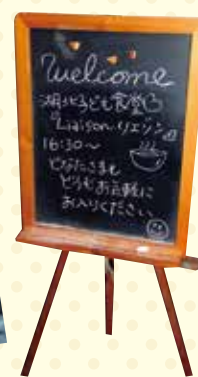
▲もらい物のお芋で、お芋クッキー!優しい味に、心もほっこり



▲「はい、ならんでー!」一人ひとりに声をかけながら、今日のご飯を手渡し。



▲美味しそう♥「いただきます」は、皆一緒に★



▲「先生、カメラやで」学校とはまた違った子どもたちの様子に、先生もにっこり



学の学生さん、最近は姪っ子夫婦の友達の友達まで来てくれるようになって(笑)この食堂がなかったらきっと出会うことのなかった世代・職業の皆が、ここで食卓を囲んで笑っている姿を見ると、とっても不思議であたたかい気持ちになります。

みんなで子どもを育む気持ちを伝承する場所に

大切にしているのは、みんなで輪になって食事をする事です。遊びはそれぞれ好きなことをしますが、食事の時間だけはなるべくみんなの顔を見ながら話題を共有し、一体感を感じられる時間になっています。テーマは『「おいしい」「たのしい」のワンダーランド』。いろいろあっても、明日へのエネルギーが湧いてくる!ちょっと特別な空間を目指しています。この地域が大切にされてきた、みんなで子どもを育む気持ちを伝承する場所でありたいですね。



大学の先生の紹介でボランティアに来ています。今は保育の勉強中です!

学生ボランティア 中井 里紗さん
とっても信頼がかけます



カロムは
すご腕!

坂田小学校 校長
上村 平さん



子どもたちが「おいしい!」と笑顔になってくれるのが嬉しくて毎回大津から来てしまいます。

(右)シェフ:青木秀子さん
(左)料理アシスタント:山田久子さん

愛称
「ひでちゃん」

開催日 第2・第4水曜日 16:30~19:30
(第2は個別対応デー、おためし体験デー 連絡要)
参加費 子ども100円、学生200円、おとな300円
場所 ウェルカム倉庫リエゾン(米原市長沢1650-1)
連絡先 090-5249-4328(北居さん)

地域の子どもの笑顔のために!
実施主体や手法はさまざまでも、
この想いはひとつ

開設準備講座 第2弾(甲賀会場)、第3弾(湖北会場)を開催しました

~さあ、これから始めよう!うちはどんなことができるかな?~

「子ども食堂をやりたいけど、何から始めたらいいだろう?」「始める前に疑問を解決したい!」。こんな思いをお持ちの皆さんに向けて、7月から始まった開設準備講座。好評を受け、第2弾、第3弾企画を開催しました。すでに実践されている活動者の皆さんの実践報告や質問コーナーをうけて、より思いが強くなり、また

イメージが具体的になったとの声が届きました。参加後、いくつかの地域で新たな食堂の開設に向けた相談が始まっています!

今年度は、さらに4会場で開催する予定です。

みんなが来やすい
居場所を作ろう!



準備は大変だけど、やり終わったら「やってよかった」っていつも思います



情報交換会(交流会)を開催しました ~つながろう!淡海子ども食堂のネットワーク~

はじめまして!
名刺カード
交換は、
大盛り上がり

多くの活動者の皆さんから子ども食堂同士の交流会を希望する声を受けて、今年度第1回となる情報交換会を開催しました。

名刺交換や各食堂からの「うちの食堂ひとこと自慢」、グループワーク等を通して交流を深めました。



【グループワークの意見より】

- いただいた食糧などを、近くの子どもの食堂と分け合えるようなつながりができていくと良いな。
- スタッフ以外の応援団を増やしていきたいな。
- 「遊べる・学べる」とあるが、挨拶をしたり、後片付けを手伝ったりすることも学習やなあ。
- 子どもたちがやんちゃできる場でありたいな。
- 区内の有線放送で子どもたちへの呼びかけをしてるんや。
- 地域のいろんな世代の方が参加できる場になると良いな。



「こんなとき、どうしてる?」それぞれの工夫を学びあいます。



【参加者アンケートより】

- 一つひとつの課題を乗り越えながら、食堂を運営し続けることが大切と感じた。
- 活動に際し、物心両面で工夫をされている団体さんが多く、非常に参考になりました。
- 皆さん柔軟かつ楽しそうに活動されており、パワーをもらいました!

平成28年度 県への施策提案

滋賀の縁創造実践センターではこれまでの実践での気づきをもとに、「平成28年度滋賀の縁創造実践センターからの提案」をまとめました。去る8月17日(水)には、本提案書をもとに、三日月大造滋賀県知事と縁センター正副代表理事、各小委員会リーダー等との懇談を行いました。知事からは「本提案はすべて建設的なものであり、しっかりと検討させていただく。糸賀思想をしっかりと伝え、滋賀の福祉と同時に日本の福祉を創っていくきっかけとしたい」との力強いお言葉をいただきました。



3月11日は「えにしの日」

「えにしの日(3月11日)の制定

非常時にこそ、日頃の地域が現れると言われます。現に困っている人びとの側から、共に生き、支え合える地域づくりを考え、共動することが縁センターの本質であることから、東日本大震災の発生した3月11日を起点に「えにしの日」「えにし週間」を制定し、県民がつながり、助け合うことを意識し、行動を通して共感する機会を県全域で作っていきたいと考えています。これはまさに、「この子らを世の光に」の今日的実践です。

《具体的な取り組み内容》

支援を必要とする人びと、生きづらさを抱えた人びとが災害時に孤立することなく、住民がひとりももれなく生き抜ける地域をめざして、リアルティのある訓練や研修等に取り組みます。

H28 10月～ 企画会議における検討、訓練等の具体化

H29 2月 「えにしの日」訓練に向けたキックオフフォーラムを開催

3月 「えにしの日」訓練⇒取り組みから気づいたこと等を集約、報告書の作成

お問い合わせ
先はこちら

滋賀の縁創造実践センター事務局

〒525-0072 滋賀県草津市笠山7丁目8-138 社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会内
TEL 077-569-4650 FAX 077-567-5160 【メールアドレス】enishi@shigashakyo.jp
【ホームページ】http://www.shiga-enishi.jp
【Facebook】https://www.facebook.com/shiganoenishi

滋賀の縁創造実践センター5年間の目標

だれもが「おめでとう」と誕生を祝福され、「ありがとう」と看取られる地域づくり

①地域に縁・共生の場をつくる⇒300か所(概ね小学校区に1つ)

だれでも気兼ねなく寄れる場で、見守りネットワークの拠点として支援者同士がつながれる場、SOSがつながる場を“これぞ縁”として、地域のなかに「縁」の志と実践をひろげていきます。

【リーディングプロジェクト】(1)「遊べる・学べる淡海子ども食堂」(2)“滋賀の縁”認証事業

②課題解決のためのネットワークをつくる⇒15か所(概ね福祉事務所単位)

一人ひとりを、家族を、トータルにサポートするために、分野横断で支援者がつながり、解決のために協力して動けるネットワークをつくります。

③制度の対象とならず、支援が届かない課題の解決に取り組む⇒15のモデル事業

深刻な問題であるのに制度の対象とならず、支援がうまく届かない問題があります。支援者が現場で困難を感じている課題をもとにモデル事業を組み立て、実施し、制度の拡充や施策の創設を目指します。

④国や県、市町への施策提案に取り組む⇒20の提案

モデル事業や会員の現場での実践にもとづいた施策充実への提案に取り組みます。

⑤縁・支えあいを県民運動にしていく⇒新たに福祉のボランティア体験をする人を1万人つくる

つながりと助け合いが豊かに育まれる滋賀ならではの県民性。そんな滋賀づくりとして、市町ボランティアセンターと会員施設が協力して福祉ボランティア体験の場をつくります。

滋賀の縁創造実践センター 会員名簿

(平成28年9月30日現在)

■参加団体会員名簿

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会・一般財団法人 滋賀県老人クラブ連合会・一般社団法人 滋賀県介護福祉士会
一般社団法人 滋賀県保育協議会・公益財団法人 滋賀県身体障害者福祉協会・公益社団法人 滋賀県社会福祉士会
公益社団法人 滋賀県手をつなぐ育成会・滋賀県介護サービス事業者協議会連合会・滋賀県介護支援専門員連絡協議会
滋賀県里親連合会・滋賀県児童福祉入所施設協議会・滋賀県社会福祉法人経営者協議会・滋賀県障害者自立支援協議会
滋賀県民生委員児童委員協議会連合会・滋賀県老人福祉施設協議会・滋賀県市町社会福祉協議会会長会
社会福祉法人 滋賀県視覚障害者福祉協会・社会福祉法人 滋賀県母子福祉のぞみ会・医療福祉 在宅看取りの地域創造会議
レイカディアえにしの会・滋賀県救護施設協議会・淡海フィナンソロピーネット

■参加法人会員名簿 ※本名簿は、法人事務局の所在地で掲載しています。

<大津>(福)青桐会、(福)穴太福祉会、(福)近江会、(福)近江笑生会、(福)近江神宮仁愛会、(福)大石福祉会、(福)大津市社会福祉協議会、
(福)大津市社会福祉事業団、(福)大津ひかり福祉会、(福)恩徳寺会、(福)華頂会、(福)唐崎福祉会、(福)唐橋福祉会、(福)共生シンフォニー、
(福)桐生会、(福)江育会、(福)幸寿会、(福)好和会、(福)湖青福祉会、(福)小鳩会、(福)滋賀同仁会、(福)志賀福祉会、(福)真盛園、(福)夕陽会、
(福)石光山会、(福)禅心福祉会、(福)せんだん二葉会、(福)つばさ会、(福)春風会、(福)琵琶湖愛輪会、(福)美輪湖の家大津、(福)楽樹
<湖南>NPO法人ものわすれカフェの仲間たち、(福)あけぼの会、(福)永山会、(福)恩賜財団済生会、(福)湖南会、(福)彩陽会、(福)しあわせ会、
(福)慈恵会、(福)志津保育園、(福)すずのご保育園、(福)聖優会、(福)パレット・ミル、(福)ひかり会、(福)びわこ学園、(福)みのり、
(福)守山市社会福祉協議会、(福)守山向日葵会、(福)野洲慈恵会、(福)野洲市社会福祉協議会、(福)友愛、(福)よつば会、
(福)栗東市社会福祉協議会、(福)良友会、特定非営利活動法人草津市心身障害児者連絡協議会
<甲賀>(福)あいの土山福祉会、(福)あかつき会、(福)近江ちいりば会、(福)近江和順会、(福)大木会、(福)おさなご会、(福)甲賀会、
(福)甲賀学園、(福)甲賀市社会福祉協議会、(福)甲南会、(福)湖南市社会福祉協議会、(福)さわらび福祉会、(福)しがらき会、(福)信楽福祉会、
(福)天地会、(福)八起会、(福)ひまわり会、特定非営利活動法人NPOファイワイあぼしクラブ
<東近江>(福)阿育会、(福)一善会、(福)近江兄弟社地塩会、(福)近江八幡市社会福祉協議会、(福)グロー、(福)恵泉会、(福)湖東会、
(福)サルビア会、(福)慈照会、(福)至徳会、(福)真寿会、(福)布引会、(福)八宮会、(福)八幸会、(福)万松会、(福)東近江市社会福祉協議会、
(福)日野町社会福祉協議会、(福)日野友愛会、(福)ほのぼの会、(福)めぐみ会、(福)雪野会、(福)竜王町社会福祉協議会、(福)六心会
<湖東>(福)愛荘町社会福祉協議会、(福)愛悠ものの会、(福)あすなろ福祉会、(福)近江ふるさと会、(福)甲良町社会福祉協議会、(福)ことぶき会、
(福)さざなみ会、(福)さざなみ学園、(福)椎の実会、(福)慈水会、(福)白露会、(福)善行会、(福)大樹会、(福)多賀町社会福祉協議会、(福)稲朋会、
(福)豊郷町社会福祉協議会、(福)ノゾミ会、(福)彦根市社会福祉協議会、(福)ふたば会、(福)みづほ会、(福)三つ和会、(福)若葉会
<湖北>(福)カトリック京都司教区 カリタス会、(福)公悠会、(福)湖北真幸会、(福)湖北報恩会、(福)青祥会、(福)尊徳会、(福)達真会、
(福)長浜市社会福祉協議会、(福)ははのくに、(福)米原市社会福祉協議会、(福)まんてん
<高島>(福)大阪自彊館、(福)光養会、(福)新旭みのり会、(福)たかしま会、(福)高島市社会福祉協議会、(福)虹の会、(福)はこぶね会、
(福)ゆたか会
<県域>(福)滋賀県社会福祉協議会

【個人会員】上野谷 加代子、山辺 朗子、上西 祥之、廣田 敬史、大谷 雅代、宮本 育子、前阪 良憲、正田 由香里、松田 弘、
牛丸 昇子、上村 文子、尾畑 聡英、山元 浩美、北居 理恵、松本 敦三、森本 美絵、奥田 与嗣男、西村 孝実、中根 超信、村上 浩世

【賛助会員】元三フード株式会社、総本山 西教寺、株式会社なんてん共働サービス、大津市仏教会、滋賀県仏教会、
一般社団法人きれいや総研滋賀中央センター、株式会社彩生舎

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

平成28年度

ボランティア活動保険

全国200万人
加入!!

http://www.fukushihoken.co.jp

ふくしの保険



(※)天災タイプでは、天災(地震、噴火または津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが(天災危険担保特約条項)、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

補償金額(保険金額)

保険金の種類		プラン	Aプラン	Bプラン
ケガの補償	死亡保険金		1,200万円	1,800万円
	後遺障害保険金		1,200万円(限度額)	1,800万円(限度額)
	入院保険金日額		6,500円	10,000円
	手術 保険金	入院中の手術	65,000円	100,000円
		外来の手術	32,500円	50,000円
	通院保険金日額		4,000円	6,000円
賠償責任	特定感染症の補償	上記後遺障害、入院、通院の各補償金額(保険金額)に同じ		
	葬祭費用保険金(特定感染症)		300万円(限度額)	
	賠償責任保険金(対人・対物共通)		5億円(限度額)	

年間保険料(1名あたり)

タイプ	プラン	Aプラン	Bプラン
基本タイプ		300円	450円
天災タイプ(※)		430円	650円

保険金をお支払いする主な例



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第三課 保険会社〉
TEL:03(3593)6824
受付時間:平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763
営業時間:平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

(SJNK15-17042 2016.02.18作成)